

令和 5 年度 施策評価表

第 5 章『魅力・元気・文化を誇れるまち』

まちづくりの目標	農業、商業、工業、観光業などの各産業の活性化を図るとともに、これらが自然環境や文化、芸術などと複合的につながり、魅力あふれるまちづくりをめざします。
分野別計画・指針	所沢市文化芸術振興ビジョン、所沢市産業振興ビジョン、所沢市中心市街地活性化基本計画、所沢市農業振興地域整備計画、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、所沢市都市農業振興基本計画、所沢駅周辺グランドデザイン

第1節	産業基盤
関係所属	産業振興課、市街地整備課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業基盤」 所沢市は企業の立地や新ビジネスの創出が盛んに行われている	343	13.3%	208	8.1%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	総生産額	億円	-	8,519	9,095 (R1)	○	8,681

事業目標の達成状況

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-1-1	新たな産業用地等の創出	企業立地支援奨励金交付件数	件	3	6	6	○	6
5-1-2	企業誘致の推進	都市型産業等育成補助金交付件数	件	-	10	4	×	10
5-1-3	起業・創業の促進	創業支援事業の支援対象者数	人	166	313	245	×	313
5-1-4	新たなビジネスやイノベーションの創出	農商工連携による新たな商品やサービス等の創出件数	件	1	3	4	○	3

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 - 産業団地創出を目指す三ヶ島工業団地周辺地区について、7月に埼玉県産業基盤づくり取組方針に基づき、市と土地区画整理事業組合準備会で「未来を見据えた産業基盤の創出共同宣言」(7月7日)をし、埼玉県の「産業誘導地区」に選定(7月12日)された。9月に周辺市町を含め都市計画変更の原案説明会等を開催し、都市計画法の手続きに着手した。また、土地区画整理事業実施や低炭素な産業団地創出に向けた調整や施策検討なども進めた。
 - 12月1日にゼロカーボンシティ所沢の実現に向けた施策展開として、産業誘導地区等への先進的な製造業を中心とした企業誘致の促進が図られるよう、埼玉県知事への要望活動を行った。
 - 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、事業全般を工夫しながらの実施となった。
 - 企業誘致活動については、企業訪問等を自粛したものの、埼玉県主催の企業立地セミナー(名古屋)への三ヶ島工業団地周辺地区に創設される産業団地の情報提供を行った。また、北海道、東北、中国、四国、九州の製造業者に向けて三ヶ島工業団地周辺地区のPR用のDMを発送し、誘致活動を行った。
 - 農商工連携推進事業では、「農商工連携のためのきっかけづくり交流会」を3年ぶりに対面形式で開催した。参加者数は少なかったが、その分密な交流ができ、マッチング件数も多く、有意義な交流会を開催できた。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 - 都市型産業等育成補助金については、金融機関等の訪問を実施して制度の周知活動を行ったが目標を達成できなかった。
 - 創業支援事業では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、創業の機運の高まりは見られず、目標を達成できなかった。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 三ヶ島工業団地周辺地区について、令和5年内の都市計画決定及び土地区画整理事業の着手を目指し、関係機関及び地元調整を進めていく。また、脱炭素の産業団地創出に向けて土地区画整理事業組合や業務代行者との検討や調整を進めていく。
- 新たな産業団地創出を目指す関越自動車道所沢IC周辺地区について、都市計画や土地区画整理事業の課題整理や地元勉強会等を行うとともに、ゼロカーボン所沢に相応しい低炭素な産業団地創出に向けた技術的検討を進め、地区の構想案をとりまとめる。
- 新たな産業用地である三ヶ島工業団地周辺地区の都市計画事業がより具体化してくるから、街づくり計画部と連携しながら事務を進めていく。
- 市内への企業立地を促進するため、引き続き埼玉県をはじめとした関係機関と連携し周知活動に努めていく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 企業誘致の推進にあたっては、立地希望調査等を活用し、企業訪問などにより積極的に誘致活動を展開していく。
- 創業支援事業は、多様な支援メニューにより創業者を多角的に支援するものであるが、創業に関する施策のニーズを的確に捉え、事業の充実を図っていく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 畑中 武
-----	---------	--------	--------------

第2節	産業競争力・成長力	
関係所属	産業振興課、農業振興課	

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業競争力・成長力」 所沢市は商業・工業・農業などの地元産業が活発である	396	15.4%	219	8.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	製造品出荷額等	億円	1,628	1,880	1,741 (R3)	×	1,980

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-2-1	地域を牽引する事業者等への支援	地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業により開発された新製品件数	件	3	5	2	×	5
5-2-2	商工業者等の経営基盤の強化	(仮称)地域の中核となる事業者等応援事業による派遣件数	件	-	10	11	○	15
5-2-3	農業の生産基盤・経営基盤の強化	認定農業者数(総数)	人	161	170	177	○	170

節の基本方針への取り組み状況	
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○地域資源活用・ものづくり総合支援補助金は、地域産品と複数の地元業者が関わった新製品開発などの事業を交付対象としており、地域経済の活性化や農商工連携の推進に寄与した。</p> <p>○(仮称)地域の中核となる事業者等応援事業においては、対面訪問を実施し、経営上の課題をヒアリングした。また、所沢市だけでなく国や県の事業者支援施策の紹介を行い、課題解決の一助となるよう努めた。</p> <p>○認定農業者、認定新規就農者といった地域の中心経営体の確保、農地の集積による地域農業の体質強化を目的として、新規就農者が就農する2地区の「人・農地プラン」を改定した。</p> <p>○農業振興地域整備計画の適切な運用により、農業生産の基盤となる優良農地の確保に努めた。</p> <p>○農業を牽引していく認定農業者に対して、経営をテーマとした講演会を開催するとともに、「認定農業者等経営改善推進事業」などにより農業経営改善の支援を行った。</p>	
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○地域資源活用・ものづくり総合支援補助金については、設備改修や新製品開発等の補助限度額の大きい事業(最大150万円)が採択されたことにより、予算が不足し、採択件数が少なくなったため、目標とした補助件数に達しなかった。</p>	

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

○農業を牽引していく認定農業者に対しては、農業経営改善に向けた支援を行い、新たな担い手である認定新規就農者に対しては、経営初期の安定化のための支援を行っていく。

○地域の農業情勢を見据え、適切に「人・農地プラン」を改定するとともに、法改正により移行する「地域計画」の策定準備を進める。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

○地域資源活用・ものづくり総合支援補助金は、小規模事業者の生産性向上や地域産業の活性化を図る上で効果的な事業であるため、より一層の周知や事業の充実に向け取り組んでいく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
レ 2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	レ 12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ 15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 畑中 武
-----	---------	--------	--------------

第3節	観光・にぎわい	
-----	---------	--

関係所属	商業観光課、農業振興課	
------	-------------	--

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「観光・にぎわい」 所沢市らしい誇れる観光スポットや賑わいのエリアがある	788	30.6%	508	19.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	観光入込客数	万人	552	720	476(R3)	×	780

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化	新たな拠点施設への来場者数	万人	-	120	30	×	140
5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成	他自治体と連携イベント等へ参加した回数	回	20	24	13	×	26
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進	体験農場利用者ステップアップ事業への参加者数	人	238	300	99	×	300
5-3-4 観光客誘致の強化	Facebook等のSNSの”いいね”数	人	5,869	10,400	14,615	○	12,200

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○「COOL JAPAN FOREST構想」の一環である所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOが開業から1年を迎え、前年度以上の来場者を迎えた。
 ○日本初の飛行場である所沢飛行場やフランス航空教育団など所沢の航空の歴史を伝える映画「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」を製作した。
 ○台北国際旅行博の出展や台湾(・香港)向けのWEB記事の配信、台湾の旅行会社とのネットワークづくりを行い、アフターコロナのインバウンド需要回復に向けてPRをした。
 ○2年毎の入替に伴い、令和4年度より新規利用者へ体験農場を貸出すことで、土に触れ合いながら収穫の喜びを感じてもらうことにより、農業への理解を深め「農のあるまちづくり」を推進した。
 ○お茶の香りを発する「茶香炉」を市の公共施設等に設置するとともに、イベント時等での活用を通じて、その香ばしい香りで、本市が狭山茶の産地であることをPRした。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○新たな拠点施設への来場者数が未達成の理由は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動の自粛や海外観光客の入国制限等により、来場の機会が失われたためである。
 ○他自治体と連携イベント等へ参加した回数が未達成の理由は、前年度よりは増加したものの新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが実施できなかったためである。
 ○コロナ前における体験農場利用者ステップアップ事業は、講習会、区画圃場コンテスト、農家での農作業体験の3事業の実施による参加者の合計数を指標としていたが、類似事業があることや例年参加者が少なかったことなどの理由により実施方法を見直し、講習会の実施とされたため目標未達成となった。開催した講習会については、コロナ禍での開催ではあったが、農場の限られたオープンスペースに応じた人数で、過密化を防ぎながら開催したこともあり、全参加者が講師の所作をしっかりと学ぶことができた。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

○広域連携を推進し、広く所沢市の観光資源をアピールするため、近隣自治体との連携を深めていく。

○アフターコロナのインバウンド需要回復に向けて、市外に向けた本市の観光スポット等のPRを行うとともに、市内の受入れ整備としてガイド養成や多言語案内(パンフ等)を進めていく。

○所沢産農産物の消費拡大を推進していくため、生産者の農業経営の改善を支援しながら、市内外の消費者のみならず、インバウンドも視野に入れつつ、コロナ禍で自粛していたイベント等へ参加することにより、効果的に農産物のPRやブランド化の推進を図っていく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

○YOT-TOKOへの来場者増につながる取組を実施するとともに、YOT-TOKOから市内の観光スポットを訪れるなど観光客が市内を回遊するような取組を実施する。

○体験農場においては利用者のニーズを把握しながら講習会等の開催を行うとともに、2年毎の入替えの時期となるため、新たな利用者への農場の貸出しに向けた事務を進める。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公正をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R5.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 畑中 武
-----	---------	--------	--------------

第4節	産業人材・雇用
関係所属	産業振興課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業人材・雇用」 所沢市の農業の担い手育成や就労支援は充実している	188	7.3%	215	8.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	市内事業所従業者数	人	114,497	115,500	116,328 (R3)	○	115,900

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-4-1	将来の産業を担う人材の確保と育成	市ホームページ等で紹介した事業者数(累計)	者	-	50	17	×	50
5-4-2	雇用の確保や労働環境の改善	就職応援フェア参加者数	人	105	100	65	×	80

節の基本方針への取り組み状況							
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○事業者からの人材確保支援要望の高まりを受け、市内製造事業者の魅力をPRするコンテンツ、通称「とこジョブ」の公開や冊子の作成等を実施した。また、新たな取り組みとして、とこジョブ掲載事業者に協力をお願いし、将来の人材確保に結びつけていくために、就職を希望する高校生を対象とした「OPEN FACTORY TOKOROZAWA」を開催し、工場見学、社長・若手社員との懇談やものづくり体験をするなど、製造業をより身近に感じてもらうよう努めた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえながら、「セカンドキャリアセンター事業」や「就労チャレンジ支援事業」など、若者・女性・シニア等の就労支援事業に取り組んだ。</p>							
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○人材確保策として行っている市内事業所の紹介については、掲載事業者の募集を市HPや広報で周知している他、事業所に対してはDM発送や、企業訪問時に制度の活用を案内するなどの活動を行っているが、申請数が伸び悩んだ理由は不明である。</p> <p>○就職応援フェアの若年者の参加者数については、オンライン化の推進で面接会を利用しなくても就職が決まりやすくなっていることなど、若年者層が来所する機会が減ったことが主な要因ではないかと思われる。</p>							

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

○国・県と連携しながら、多種多様な世代に合わせた就労支援を実施していく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

○人材確保策として行っている市内事業所の紹介については、掲載事業所を増やすため、企業への訪問等を含めて積極的に周知活動を行っていく。

○就職応援フェアについては、ハローワーク所沢と連携し、参加者ニーズを把握するとともに、周知手法なども検討していく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 畑中 武
-----	---------	--------	--------------

第5節	国際化・多文化共生	
関係所属	企画総務課	

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「国際化・多文化共生」 所沢市は外国人市民にも暮らしやすいまちだ	317	12.3%	140	5.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	国際化・多文化共生に関する施策の満足度	%	-	38	12.3	×	40

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-5-1	国際交流活動の推進	姉妹都市交流事業に参加した市民の人数	人	150	170	実施なし	×	180
5-5-2	外国人市民が暮らしやすい環境づくり	多言語化した行政資料の種類（「やさしい日本語」含む）	数	5	30	70	○	40
5-5-3	多文化共生の意識を育む環境づくり	国際交流フォーラムの参加者数	人	550	590	600	○	610

節の基本方針への取り組み状況	
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○アメリカ・ディケイター市との姉妹都市締結55周年を記念する代表訪問団をディケイター市に派遣し、今後の交流継続を確認した。</p> <p>○イタリア都市文化交流推進事業の一環として、イタリア共和国ティエーネ市に所沢市代表訪問団を派遣し、今後両市が様々な分野で交流していくことについて覚書を取り交わした。</p> <p>○多文化共生の意識を育む環境づくりの一環として、外国人市民と日本人市民の交流・情報交換の場となる国際交流フォーラムの開催した。</p> <p>○災害や避難に関する知識や経験が不足している外国人市民向けに防災講座を実施した。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○姉妹都市交流は、新型コロナウイルス感染症の影響で、市民レベルでの交流事業が実施できなかった。</p>	

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 国際交流活動では、姉妹都市をはじめ、昨年度覚書を取り交わしたイタリア共和国ティエーネ市との交流を引き続き推進していく。
- 外国人市民が暮らしやすい環境づくりの一環として、行政資料の多言語化(「やさしい日本語」を含む)や市ホームページ等での情報発信の充実を図る。
- 多文化共生の意識を育む環境づくりの一環として、国際交流フォーラムの開催や庁内職員向けの研修を引き続き実施する。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 姉妹都市交流事業については、近年、新型コロナの影響により市民レベルでは実施できなかったが、今後、交流が再開される見込みであることから、目標達成に向け事業を進めていく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう	
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを	
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任	
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を	
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう	
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公正をすべての人に	
8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう	
9 産業と技術革新の基盤を作ろう			
評価日	R5.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 柳田 晃芳

第6節	文化芸術・伝統文化
関係所属	文化芸術振興課、文化財保護課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和4年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,571人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「文化芸術・伝統文化」 日常生活の中での芸術・文化に触れる機会に満足している	485	18.9%	258	10.0%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
	文化芸術・伝統文化に関する施策の満足度	%	-	43	18.9	×	45

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R4年度目標値	R4年度実績	達成状況	R6年度目標値
5-6-1	個性あふれる文化の創造	所沢市文化祭の延入場者数及び事業参加者数	人	17,927	20,000	10,111	×	21,000
5-6-2	文化財の保護・活用	文化財保護にかかる事業の参加者数	人	9,450	11,300	6,283	×	12,000
5-6-3	ふるさと研究の推進	ふるさと研究活動にかかる延利用者数	人	5,882	6,100	4,534	×	6,200
5-6-3	ふるさと研究の推進	郷土資料利用件数	件	389	430	939	○	450

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 ○グランエミオ所沢に設置しているストリートピアノの設置1周年の記念コンサートを行ったほか、新所沢パルコ等でコンサートを開催し、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々に演奏や観覧の場を提供し、ふと音楽が聞こえてくる「音楽のあるまちづくり」をさらに推進させた。
 ○「音楽のあるまちづくり」の新たな核となる事業として平成29年度にスタートした「空飛ぶ音楽祭」について、令和5年度の開催に向けて、新たに実行委員会を発足し準備を進めた。
 ○集客性の高い所沢駅周辺の複数会場で現代美術展「ところざわ アートのミライ」を開催し、所沢ゆかりの若手作家の作品発表の場を設けるとともに、市民に対して気軽にアートに触れる機会を提供することで、若手作家への理解を深め、文化芸術の機運の醸成を図った。
 ○「文化」と「航空発祥」の2つのテーマの下、新しい市民文化の創造を目指した春のイベントである「市民文化フェア」について、令和4年4月の開催は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、最後となる令和5年度の開催に向けて準備を進めた。
 ○市内において様々な芸術・文化活動を行う16の連盟で組織される所沢市文化団体連合会の最大の事業である「所沢市文化祭」は、新型コロナウイルス感染症の対策をしつつ大半の催しが実施され、各団体に対して情報提供や会場確保等による支援を行った。また、3年ぶりに「総合フェスティバル」を開催し、文化活動の成果を発表する機会を設けることができた。
 ○所沢市民文化センターについて、指定管理者制度による管理運営を行った(指定管理者:公益財団法人所沢市文化振興事業団)。令和4年度から新たに5年間の指定管理期間となり、施設運営については新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、ガイドラインを遵守しながら感染対策を徹底して運営を続け、来館者数も回復してきた。なお、令和2年度から継続して、PFI事業者による施設の維持管理を実施している。
 ○所沢駅東口市民ギャラリーについて、指定管理者制度による管理運営を行った(指定管理者:公益財団法人所沢市公共施設管理公社)。
 ○新たに指定した有形文化財(絵画)「小茂田青樹写生画」公開の場として、文化財保護課と文化芸術振興課が連携した「小茂田青樹写生画・山路真護油彩画展」を開催し、市民が所沢の文化財を学ぶとともに芸術文化の秋を楽しむ機会とした。
 ○企画展「戦争の時代を生きた市民 1931-1945」及び「昔さがし展～病とくらし～」の開催により、市民が所蔵する資料や市への寄贈資料を公開し、市民が守り伝えてきた所沢の歴史・文化を伝え・学ぶ機会とした。
 ○国重要文化財「小野家住宅」や国登録有形文化財「秋田家住宅」を公開することにより、市民が文化財に親しむ機会とした。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業の縮小・中止を余儀なくされ、人数を指標とした目標値の達成は困難な状況であった。事業の内容に関しては、参加者満足度(アンケート調査)において高い評価を得ている。
 ○「所沢市文化祭」については21事業中2事業の中止に留まったが、延入場者数及び事業参加者数はコロナ禍以前に比して大きく減少した。
 ○「星空フェスティバル」や「埋文まつり」などは事業規模を縮小して開催した。また、令和4年度実績値は前年度実績値よりも上昇しており、「withコロナ」に対応した事業の成果が見えている。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 「音楽のあるまちづくり」の推進をはじめ、文化の薫り高い施策を進めていく。
- 所沢市民文化センターについては、市の文化の発信拠点として、魅力あるコンテンツを提供していけるよう指定管理者と協力していくとともに、地域密着型の文化振興についても推進していく。
- 文化財の所在把握や調査に努め、その価値を明らかにするとともに、保護と活用の両輪により後世へ護り伝えていく。
- 「ふるさと所沢」に関する資料を収集・整理・調査し、その成果について展示・講座・体験学習会等を通じて市民に伝えていく。また、市が所蔵する資料を良好な環境で保存するため郷土資料等収蔵施設の検討を進める。
- 市民が日常生活の中での芸術・文化に触れる機会の創出のため、文化財保護課と文化芸術振興課の連携事業を今後も企画していく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 新型コロナウイルス感染症に関する行動制限が緩和されるつつある中で、安心安全な対策を施しながら人々が安心して文化芸術に触れる機会を提供するとともに、文化芸術に気軽に親しむことで関心を持つ人たちの裾野を広げていけるよう内容を充実させていく。
- 事業規模を縮小して開催していた「星空フェスティバル」や「埋文まつり」を再開し、より多くの市民が「ふるさと所沢」の文化財や歴史・自然等に愛着を抱くことができるよう、情報発信や講座開催などの充実に努める。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R5.7.31	記入者職氏名	市民部次長 田中 政美 教育総務部次長 池田 淳
-----	---------	--------	-----------------------------